



平成 26 年度全国学力・学習状況調査 三島市の結果より

伸ばそう！子どもの学力

三島市教育委員会

平成 26 年 12 月発行



小学校6年生と中学校3年生を対象に、全国学力・学習状況調査が実施されました。本調査は、子どもたちの学力や学習・生活状況を把握し、その結果を今後の教育活動に役立てていくことが目的です。

三島市の子どもたちは、小学生、中学生ともに、国語や算数・数学において、全国や県の平均を上回る結果でした。どのようなところができて、どのようなところに課題がみられたのでしょうか。

学校では、調査結果を活用して、授業改善に取り組んでいきます。ご家庭でも、このリーフレットの「家庭では」の欄を参考にして、子どもたちの学力を伸ばしていきましょう。

調査の概要

◆調査日 平成 26 年 4 月 22 日（火） ◆調査対象 小学校 6 年生 中学校 3 年生

◆調査内容 ○教科に関する調査（国語、算数・数学）

A 問題…主として「知識」に関する問題 B 問題…主として「活用」に関する問題

○生活習慣や学習習慣等に関する質問紙調査（学校対象、児童生徒対象）

三島の子どもたちのこんなところがすてき！（質問紙調査の結果より）

全国と比べてみると、三島市の子どもたちの好ましい傾向が見えてきました。
次のような項目が全国平均よりも高くなりました。

- ・自分にはよいところがあると思う。
- ・学級みんなで協力してやり遂げ嬉しかったことがある。
- ・先生は自分のよいところを認めてくれていると思う。
- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。
- ・テレビやインターネットのニュースをよく見る。
- ・人の気持ちがわかる人間になりたいと思っている。
- ・算数・数学が好きで、授業の内容がよくわかる。
- ・家で学校の宿題をしている。
- ・読書が好き。
- ・図書館や図書室に週1回以上行っている。

国 語

紙面の都合上、調査問題を省略して示しています。

こんなところできています

- 漢字を読む。
 - ・標識、街灯（小学校）
 - ・稚魚、音響、挑む（中学校）
- 国語辞典を使って言葉の意味と使い方を理解する。
 - ・運動をする機会の増加をはかる→（計る、測る、量る、図る）の中から、正しい漢字と意味を選ぶ。
（小学校）

三島の子どもたちの伸ばしたいところ

資料から適切な情報を得て、伝えたいことが明確に伝わるように書く力

問題例【中学校】B2三

接着剤について書かれた【本の一部】と【インターネットの情報の一部】を読んで、封筒に貼ってある切手を水の中にしばらく浸しておく、**きれいにはがすことができるようになる理由**を、次の**条件1**と**条件2**にしたがって書きなさい。

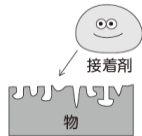
条件1：「切手」、「液体」、「アンカー効果」という言葉を全て使って書くこと。

条件2：20字以上、50字以内で書くこと。

【本の一部】


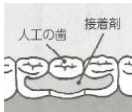
（問題文には、次のようなことが詳しく書かれています。）

- ・接着剤が物をくっつける代表的な仕組み（アンカー効果）
- ・接着剤が液体から固体になる変化
- ・接着剤が使用されている場面



【インターネットの情報の一部】

（問題文には、接着剤の使用例が書かれています。）

- ・飛行機 
- ・スペースシャトル 
- ・医療用接着剤 
- ・食品の容器 

正答率

三 島：34.6%

静岡県：31.8%

全 国：28.4%

SPEC※：45%

（正答例）

切手を水に浸すことで、固体となっていたのりが**液体**となり、**アンカー効果**がなくなるから。（43字）

解説

本や資料に示された情報について**正しく読み取り**、それらをもとに**条件に合わせて書く力**が求められています。

学校では

- ★**根拠をはっきりさせて**、自分の**考えを書く**活動を充実します。
- ★**目的に応じて**、文章や資料から**必要な情報を取り出して使う**機会を増やします。

家庭では

- ★新聞やテレビのニュースなどについて、家庭で**話す機会**をもちましょう。
- ★本や新聞、パンフレットなど、さまざまな形態の文章に親しみ、**必要な情報を得る**ようにしましょう。

※SPEC（標準通過率）

正答の割合である通過率が、学習指導要領に示された内容について、標準的な時間をかけ、学習指導要領上想定された学習活動が行われた場合、どの程度の水準に達していることが望ましいかを示す数値です。

本年度の調査問題の出題の狙いを踏まえ、過去の類似問題の全国正答率を参考にしながら、子どもたちに通過してほしい値として、静岡県独自に設定してあります。

算数・数学

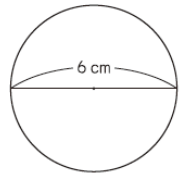
紙面の都合上、調査問題を省略して示しています。

こんなところできています

●計算をする。

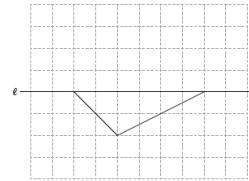
- ・ 903×6 (小学校)
- ・ $2 \div 5$ (小学校)
- ・ $10xy \div 5x$ (中学校)

●円周の長さを求める。



(小学校)
円周率は 3.14

●線対称な図形を完成する。



(中学校)

三島の子どもたちの伸ばしたいところ

提示された情報をもとに、答えの求め方や、
判断した理由を言葉や数を用いて説明する力

問題例【小学校】B3(3)

ともみさんは、スープを分ける係になりました。玉じゃくし1ぱいを1人分として、40人に分け始めました。すると、分ける前と10人に分けた後では、右下の図のようになりました。

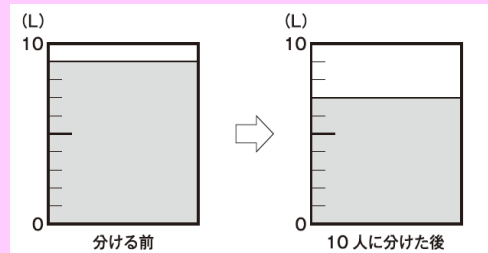


正答率

三島 : 34.5%
静岡県 : 31.4%
全国 : 30.6%
SPEC※ : 40%

この分け方で、残りの30人にスープを分けることができますか。次の1から3までの中から1つ番号を選び、その番号を選んだわけを、言葉と数を使って書きましょう。

- 1 足りなくなって、分けることができない。
- 2 残さず分けることができる。
- ③ 分けることはできるが、残る。



3を選んだ子どもは、
80.6%

(誤答例)

わけ：10人分のスープの量は、 $9 - 7 = 2$ で、2Lです。残りの30人に必要なスープの量は、 $2 \times 3 = 6$ で、6Lです。だから、分けることはできますが、残ります。

3を選んで、理由まで説明できた子どもは、
34.5%

(正答例)

わけ：10人分のスープの量は、 $9 - 7 = 2$ で、2Lです。残りの30人に必要なスープの量は、 $2 \times 3 = 6$ で、6Lです。
①10人に分けた後では、7L残っているので、
②30人に分けると、 $7 - 6 = 1$ で、1L残ります。だから、分けることはできますが、残ります。

解説

- ①残りのスープの量(7L)の記述 ②必要な量と残りの量の比較
①②または①についての表現が加わると正答になります。

答えの求め方や判断した理由について、必要な条件をすべて入れて、説明する力が求められています。

学校では

★問題を解決するとき、答えの求め方や判断した理由について、言葉や数、式、図、表、グラフなどの表現を用いて説明する活動を充実します。

家庭では

★日常生活の中で、「なぜそう考えたのか」など、お子さんが考えたことを説明する機会をつくりましょう。

子どもの学力と学習・生活習慣との関係

このページでの正答率は、国語、算数・数学の正答率を平均したものです。

〔グラフの凡例〕

■ 当てはまる

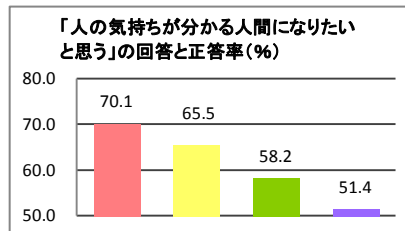
■ どちらかといえば当てはまる

■ どちらかといえば当てはまらない

■ 当てはまらない

他者との関わり・きまりを守る

小学生 「人の気持ちが分かる人になりたいと思う子」は正答率が高い。



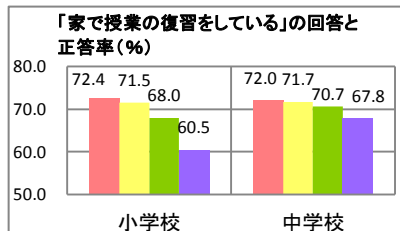
さらに、小中学生ともに、「人の役に立つ人間になりたい」、「学校のきまりを守っている」と思っている子は、正答率が高い傾向にある。



自分をかけがえのない存在と感じる気持ち(自尊感情)や生活をよりよくする規範意識を育むことが学力を支えています。

学習習慣

小中学生 「家で授業の復習をしている子」は正答率が高い。



さらに、小中学生ともに、「自分で計画を立てて勉強している子」、「家で宿題をしている子」は、正答率が高い。

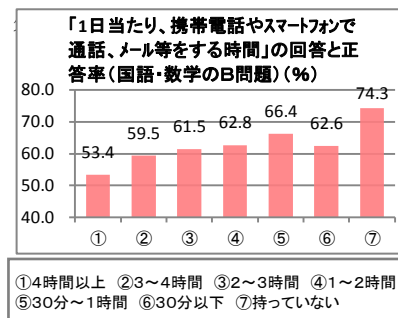
宿題をする習慣は身につけてきているが、自分で計画的に学習を進めたり、自分なりに考えて復習をしたりする子の割合は、全国や県に比べて低い傾向にある。



自分で進んで家庭学習に取り組む習慣が身につくと学力の向上につながります。

生活習慣

中学生 携帯電話等を持っていない子や30分から1時間以内で使用している子は正答率が高い。



携帯電話等を持っている子の中では、時間を決めて使っている子は正答率が高い。

小学生は、「毎日、同じくらいの時刻に寝起きしている子」は正答率が高い。



規則正しい生活や携帯電話等の適切な使用は、時間をよりよく使うことにつながります。

めざす子どもの姿

自分のよさを実感できる子

自分から進んで学習する子

計画的な生活を心がける子

学校では

今後も自尊感情が高まるような温かい言葉かけをしていきます。

今後も家庭学習への支援を進めていきます。

今後も時間のよりよい使い方について考える時間を設けていきます。

家庭では

何がよかったか、お子さんのよさを具体的にほめましょう。

お子さんがどのように家庭学習を進めているか見届けましょう。

時間の使い方や携帯電話等の利用についてルールを決め、見守っていきましょう。